

循環するモノづくり独立国宣言

tamaki niime



玉木新雌

写真・文 本出ますみ



お母ちゃんの手編みのセーターのような、自分だけの服が欲しい。大量に作って、みなが同じものを着ているのがきもち悪い。という思いから、玉木新雌さんは、パートナー・酒井義範さんと、2004年に大阪で「tamaki niime」というブランドを立ち上げました。2010年には兵庫県の西脇に移転。播州織職人・西角博文さんとの出会いもあり、ベルト式力織機2台からモノづくりははじまりました。その後何度か市内を移転した後、今の西脇市比延町550-11に根をおろします。川と山と田畑に囲まれた日本の原風景のようなところです。コットン栽培から収穫、糸づくり、染め織り縫製から販売まで、すべての工程をこの地に集め、2023年現在100人余りのスタッフと共に、シヨール、ニットをはじめすべての衣を手がけるtamaki niimeは、モノだけにとどまらず、そのマインドを刺激的に発信しています。取引先は国内だけでなく海外12カ国、一つとして同じ物の無いモノを作り続けています。2017年からは米野菜、2021年からはウコッケイや羊、さらにヤギやアルパカも仲間入りし、スタッフのランチの米は自給自足しています。ここは、日本国から経済独立し、輸出品で外貨を稼ぐ、まるで独立国のようです。循環・自立するモノづくり集団。tamaki niimeを取材しました。(本出)

玉木新雌さんとの出会いは、2023年7月1日ジャパシヨールプロジェクトの国産羊毛の格付けの日に、ワラゴミの入った裾物を取り除く作業を手伝いに来てくださったことにはじまります。ゴミだらけの羊毛を「堆肥にしてみる」と言って、3袋抱えて持ち帰られたのがはじまりです。問題点を見つけたらすぐに実行、実験、判断、そして行動する。新雌さんはカッコイイと思いました。